

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年2月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890500093		
法人名	アイリレー 株式会社		
事業所名	グループホーム あいりレー石岡	ユニット名	うみ
所在地	〒315-0005 茨城県石岡市鹿の子3-1-29		
自己評価作成日	平成24年6月30日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0890500093-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年8月29日	評価確定日	平成25年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①月間行事 ②避難訓練強化 ⑤内科・歯科往診

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は移転して間もないが、利用者は静かな住宅地の中で職員の温かい支援を受けて穏やかに暮らしている。 移転前に協力を得ていたボランティアが時々来訪し、利用者と交流を重ねている。 管理者は利用者や職員に気配りをしながら全体をまとめ、利用者や家族等、職員からの信頼を得ながら、事業所の理念にそって温かい雰囲気づくりに努めている。 利用者毎に担当の職員を決め、深く係わることにより信頼関係を築いている。 毎食、栄養バランスに配慮した手作りの食事を提供している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○当ホームの基本理念通りに実践につないでいる。 ①あなたの笑顔がみたいから私も笑顔接します→職員は笑顔で利用者様に対応し、利用者様の笑顔を見ることができている。 ②家族のような明るく思いやりのあるホームを目指します→職員自身の家族と変わらない内容の会話を利用者様とも交わり、些細なことでも思いやりをもつように心がけている。 ③地域の方々との交流を大切にします→建築中や上棟式の際、ご近所に挨拶へ出向いている。今後、交流が持てるように力を入れていきたい。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を作成し、全職員で朝礼時に理念を確認して共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・移転してまもないため、まだまだ地域になじめていないため、今後、老人会や町内会へ入れるように積極的に働きかけていきたい。	事業所は移転して間もないため、地区長の協力を得ながら地域の一員としてとけ込めるよう散歩の途中で挨拶を交わしているが、地域と日常的に交流するまでには至っていない。	運営推進会議などを活用し、地域との協力関係が一日も早く構築できるよう委員に依頼するほか、地域の人々に事業所の行事に参加してもらったり、地域の祭りなどに参加できるよう働きかけることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・外食会やいちごがりなど、ホーム以外で行う行事の時に、お店の方などとバリアフリーや食事のやわらかさなどを確認し、ホームの利用者様がお店を利用するときに何か必要かを理解して頂いている。 ・ホームヘルパーの実習、小中高生の職場体験等の受け入れをすることで、認知症の方との接し方などを学ぶ機会がある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者様の様子や緊急時の対応、事故やひやりはっと等の報告をして、地域代表の参加者の方とも意見交換をし、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1回開催し、利用者の家族等や市職員、地区長、民生委員、協力歯科医院の職員などが参加している。 会議では事業所の運営状況を報告するとともに委員から出た意見等を話し合い、会議録を作成している。 委員から同じ利用者が何度も転倒事故を起こしていることが問題提起され、転倒防止について全職員で話し合う場を持つなど、会議で出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 石岡市内の地域密着型サービス事業所を集めてサービス事業所協議会を設立し、石岡市介護保健室の職員の方にも協議会の集まりに参加して頂き、意見交換をしている。 最低でも月2回は市役所に出向き、顔を覚えてもらえるように心がけている 	<p>管理者は利用者の要介護認定更新申請や、生活保護受給利用者の手続きや相談などで市担当者を訪問するほか、事業所の運営状況を報告して協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ベッド柵をつけることが身体拘束になり、どうしても必要な場合はご家族に了承を得ていると言うことを、全職員に周知させている。(同意書あり) 身体拘束についてのマニュアルを全職員に配布、最低年に1回は身体拘束についての内部研修を実施するように計画している 	<p>身体拘束排除マニュアルを作成して全職員に配布するとともに、年1回身体拘束排除に向けた研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>危険防止のため玄関を施錠しているが、解錠に向けて定期的に話し合うまでには至っていない。</p>	<p>玄関を施錠しないで済むよう職員で定期的に話し合うことを期待する。</p>
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様へのサービス中に職員同士で確認したり、利用者様からのお話や生活記録などを確認し、虐待を想像させる行為があった場合には注意している。 高齢者虐待についてのマニュアルを全員に配布、について最低年に1回は高齢者虐待についての内部研修を実地するように計画している。 	/	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 管理者は県主催の研修で権利擁護について学ぶ機会があったが、活用できるまで至っていない 	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約する際には、必ず家族と読み合わせを行い、不安や疑問に思われたことに対して、理解、納得していただけるまで説明しています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ケアプラン作成時やホーム来荘時に、家族より意見や要望を聞くように心がけています ・毎月の広報紙の他にも家族宛に職員が担当利用者の状況を書いた手紙を送るようにしています(写真付き) ・家族会や運営推進会議の席で、参加されている家族より意見を頂いている。また、頂いた意見は職員にもきちんと伝え、検討し運営に反映出来るように努めている	年2回の家族会開催時のほか、家族等の来訪時に利用者の居室や会議室で意見や要望等を聴き、出た意見等を職員会議で話し合っ運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議の席で、職員1人ひとりから、業務や利用者の対応等、意見や提案をする場を設けています	職員が自由に意見や提案を出せるようノートを用意し、ユニットリーダーや主任管理者が確認している。 問題が解決しない場合は職員会議の議題として話し合い、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者は職員の常日頃からの業務態度、利用者の対応等で努力し頑張っている者に対して、経営者へ相談し労働能力にみあった給料の見直しをしていただいています ・勤務年数3年以上の職員には介護福祉士の受験を促し、スキルアップに努めている(資格を取得することで手当が変動するため)		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議の時間で内部研修の場を設けています ・研修後には職員1人ひとりにレポートを提出してもらい自主学習にも努めています ・石岡市の地域密着型サービス事業所協議会での研修や県主催の研修等に対して、管理者だけではなく、職員にも積極的に参加してもらい、刺激を与えるようにしています 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修を通じて管理者、職員は同業者と交流しサービスの質の向上に取り組んでいる ・石岡市地域密着型サービス事業所協議会での研修を通して、管理者、職員は各事業所の職員と交流する機会が増えてきている 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が他の利用者様との橋渡しをする事で、ここでの生活を安心して送れるように支援しています ・日々の生活の中で、職員は利用者様に対して傾聴の姿勢で努めています ・何を望んでいるか、1度ではなく何度も傾聴することで、利用者様の不安や要望を聴き可能な限り対応するように努めています 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの相談があったときや要望に対して、親身になって聴くことで、安心して信頼していただけるように努めています 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・相談があった段階で、本人や家族の思いを取り入れたサービスが提供出来る様に努めています ・事前調査票や入居後のサマリー等で、どのように支援していくか家族の要望も含め、職員で話し合いをしている 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が、利用者とのコミュニケーションを大事にし信頼関係が築けるように努め、共同生活の場の一員としての意識で取り組むように心がけている ・一方的な介護ではなく、利用者様の意志を尊重しケアに努めている ・利用者様に出来ることは自分で行うように支援し、出来ない部分は手伝うようにしています 		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・外出、外泊、病院受診の付き添いを契約時に説明し協力していただく事で、共に支えていけるよう努めています ・外出、外泊時の介助方法の相談を受けて際には、実際に介助するときの方法を実践し、家族にもわかるように教えています 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの人等の面会や連絡は、随時取れる体制になっています ・日頃のコミュニケーションで人や場所等、本人が大切に思っていることを感じ取れるときには出来るだけ配慮し傾聴に心がけている 	職員は利用者が外部の人と連絡を取りたい時には代わりに電話をかけるなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。 馴染みの理容師が月2回来訪しているほか、利用者は職員や家族等と行きつけの美容院に髪染めに出かけている。 利用者から思い出の場所を聴き、家族等の協力を得て出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者様の相性、特長を把握した上で、レクリエーションや家事などを協力し合えるように橋渡しを行い、利用者が孤立しないように支援しています 		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退居された利用者様の家族より連絡があった場合には、体調に変わりないか等その後様子を聞いています 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人の思いや意向は入居時や介護計画を立てる時に把握するように心がけています	職員は常に担当利用者の心身の状態を把握している。 意見の表出が困難な利用者には表情やしぐさなどから意向の把握に努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・個人ファイル、フェイスシートを基に、利用者様の生活歴等を把握するようにしています ・日々の生活の中で1対1で対応する時等、出来るだけこれまでの生活歴を聴くように努めています ・状態が変わったときなど、その都度介護計画やフェイスシートなどの記録を書き換え、誰がみてもわかるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者様1人ひとりの状況を、常にバイタル表や日誌・個人日記等で確認し把握するように心がけています ・利用者様の日々の表情、動作の変化がみられたときなど、記録を詳しく記入するように努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月に1度の会議の席で課題を抱えている利用者様に対して、今後の対応策を職員全員で話し合っている。医療に関わる問題については主治医に意見をお願いしケアプランに反映させている ・事故報告があがった時にも職員でミニカンファレンスを開催し改善防止策をケアプランに反映させている	介護計画は計画作成担当者が中心となって全職員で話し合い、利用者や家族等の要望のほか、職員から得た情報や担当医の意見等を取り入れ、支援経過を参考にして短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に作成し、モニタリングを6ヶ月毎に実施している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・利用者様の日々の様子を観察し、個人日記に記録してる。特に病気、怪我、いつもと違う行動している時等、対応、指示を詳しく記録に残している。また、カンファの席で職員全員が情報の共有を出来るように、利用者様担当別に報告しケアプランにも反映できるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者様の状況に応じたサービスを提供出来る様に取り組んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源の活用は出来ていないが、利用者様の残存能力を活かしたケアを実践し、出来ないところは職員が介助することで安全に生活できるように支援しています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時に主治医を変更する方も多く、現在入居されている方全員が往診で訪問して頂く「石岡診療所」の加部Drになっています ・検査結果によって石岡診療所で対応出来ない場合には、加部Drの紹介で他の病院へ受診するようになっていきます ・緊急時など主治医からの指示にそって、適切に対応している。また、必要に応じて、救急車要請あり	利用者全員が石岡診療所の医師を主治医としており、毎週火曜日に訪問診療を受診している。 受診結果は家族等に電話で報告しているほか、毎月の事業所便りと一緒に送付している。 耳鼻科や眼科など専門医への受診は家族等のほか職員が支援をしており、家族等から聞いた受診結果は個人記録簿に記録しているほか、職員が受診支援をした場合は、結果を家族等に電話で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職員はいません		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 協力病院と連携を図り、急変時の受け入れ体制を整えています 利用者様が入院した際には、こまめに状態を見に行き、主治医や看護師や相談員と話す機会を設け、退院後のケアの方法等の今後について話し合えるような体制を作り、退院がスムーズに行えるように努めています 		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 看取り介護を行わない方針で、家族にも説明をし同意書を頂いています。ただし、利用者様や家族からここでの生活を強く希望される場合は、協議した上で適切な介護が提供できると判断した時には医療機関と連携を図り看取りを行うようにしています 看取り介護を行う場合の看取り介護の定義や看取り介護計画書を作成している 	<p>ターミナルケアの方針について事業所でできることとできないことを家族等に説明して同意を得ている。</p> <p>医療関係者などチームでの看取りの支援体制を整えているが、看取り計画書を作成するまでには至っていない。</p> <p>事業所での看取りを強く希望し、事業所内での介護が可能と判断した1名の利用者について看取りを行っている。</p>	看取りを実施するにあたり、看取り計画書を作成することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対応マニュアルを作成している 急変や事故に対応出来る様に、職員は救命救急を受講しています(受講していない職員は今秋受講する予定です) 事故が起きた時には、その日のうちにミニカンファレンスを開催し改善防止策を検討している 		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回の総合避難訓練実施 (H24. 3月に震度6弱想定での総合訓練実施。次回11月予定) 毎月11日を「グループホームあいりレー石岡 防災の日」と決め、職員全員が震災マニュアルを読み返し防災意識を高める日としている 防災スケジュールを作成し毎月部分的な訓練を行うことにしている (H24. 5月、9月、H25、1月) 地震以外の自然災害マニュアル作成中 (竜巻など) 	<p>年2回の避難訓練のうち1回は消防署立会いの避難訓練や夜間想定での避難訓練を実施し、役割分担表を作成するとともに訓練後全職員で反省会を行って課題等を話し合っている。</p> <p>緊急連絡網を事業所内に掲示するとともに、食品等の備蓄品を事業所内の倉庫に保管し、数量や消費期限を記入した備蓄品一覧表を作成している。</p> <p>避難訓練に地域の人々の参加や協力を得るまでには至っていない。</p>	避難訓練に地域の人々の参加が得られるよう、運営推進会議などを活用して協力体制を早急に築くことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から言葉使いには注意をし、利用者様1人ひとりにあった声かけや対応を行い、誇りやプライバシーを損ねないように努めています ・排泄介助の声かけも大声ではなく、本人だけわかるような声で行っています 	<p>職員は親しい間柄でも利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけをしている。</p> <p>個人情報に関する書類は事務所内の鍵のかかるロッカーに保管して厳重に管理するとともに、個人情報保護規定を作成し、3ヶ月に1回職員会議で話し合っている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いを1番に考え、職員が決めるのではなく利用者自身が決めることを大事にしています ・全職員が傾聴する事を心がけながらケアに取り組んでいます ・命令ではなく疑問形で尋ね、本人の意思を尊重し希望を表出しやすいようにしています 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々にあったケアを実施することで、その人らしく過ごせるように支援しています ・天気や時間に左右されてしまうことはあるが、なるべく散歩やドライブなどの要望があった際には対応するように心がけています 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・月に2回理美容サービスの日を設けている ・行事や外出時に、洋服や化粧等、身だしなみを気かけ支援している ・マニキュアを希望する利用者様には、爪を整え、その時の気分や好みに応じた色を塗るようにしています ・入浴時の着替えも本人と一緒に準備し、季節に応じた洋服を選んでいただいている 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の盛り付けなど出来ることは一緒に行っています ・毎月、お楽しみメニューを取り入れることで食事の楽しみを持てるように工夫しています ・月に1回は外食し気分転換が図れるようにしています ・誤嚥の危険がある利用者様には、水分にはとろみをつけたり、食べやすく刻んだりする等、利用者様の状態に合わせた食事を提供しています。 	<p>職員は利用者の好物や嫌いなものを把握しており、見た目もおいしそうな食事を提供している。</p> <p>動ける利用者は他の利用者に箸を配ったり、ナプキンを敷くなどの役割を担っている。</p> <p>月1回ユニット毎に車で外食に出かけており、職員の手が足りない場合はボランティアの協力を得て実施している。</p> <p>時にはリフト車を使用し、車いす使用の利用者も一緒にお茶を飲みに出かけている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士の考えた献立メニューを作っている為、栄養のバランスは摂れています ・利用者様の栄養状態によっては、主治医の指示のもと栄養補助食品を提供しています ・水分はこまめに補給行い、その都度チェック表に記入し把握出来るようにしています ・0-S1ゼリーを活用し脱水の予防にも努めています 	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、口腔ケアを実施することで、歯磨きの習慣をつけています ・訪問歯科での口腔ケア実施（毎週月曜日） 	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすの方でもトイレで排泄するようにしています ・トイレを訴えられない方は仕草や時間を見ながら職員で声かけし誘導しています ・排泄の失敗、オムツの使用を減らせるように時間やその利用者にあった排泄パターンを把握し、適時に声掛け誘導に努めている 	<p>殆どの利用者が布パンツやリハビリパンツにパッドを使用しており、職員は排泄チェック表を確認しながら周囲の人に気付かれないように利用者に声をかけ、排泄の自立に向けた支援をしている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 水分、運動、食事に気をつけ便秘にならないように取り組んでいます 排泄チェックを行っているため、便が3日以上でないときには主治医の指示の基で、下剤の服用や浣腸を施行しています 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 毎日入浴出来るように用意しています シャワー浴希望の方には、足浴を行い足を温かくする等の工夫も行っています 体調不良の方には清拭を行うようにしています 	<p>日曜日以外は入浴が可能となっており、利用者は2日に1回入浴をしている。</p> <p>5月は菖蒲湯、冬は柚子湯を取り入れ、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。</p> <p>入浴を拒む利用者には時間をおいて声かけをしたり、清拭や足浴などに切り替えて支援をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入眠前に温度調節を行い、心地よく休めるように支援している(夏・・・エアコン、冬・・・湯たんぽ等使用) 昼夜逆転しないように活動できるレクを提供しなるべく日中は起き夜は寝るという生活リズムを作るように心がけている 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 服薬マニュアルに沿って徹底して実施している 服薬表ファイルを作り、利用者様がが何の薬を服用しているかわかるようしている 誤薬防止に努め、日頃から声だし確認(1人以上)を行い、薬のボックスも食事ごとに色分けして配薬している 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 出来ない部分は職員が手伝うようにしています 趣味がある利用者様には自由でのびのびと楽しんでいただけるように環境を整えている 適時、活動できるレクを取り入れ気分転換に努めている 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の外出行事の他にも、余暇時間を活用し散歩やドライブ等で外に行く機会を作っています（車椅子の方であってもなるべくホームの中だけの生活にならないよう心がけています） ・家族会や秋祭りなどの行事開催時には、利用者様と家族と一緒に外食に出掛けたり、ボランティアさんを要請し車椅子の介助を行っていたことで、全員が外に行けるように努めています 	<p>利用者は夕方、庭や隣の畑を見ながら敷地内を散歩しているほか、車いす使用の利用者は職員と一緒に毎日事業所周辺を散歩している。</p> <p>季節毎に八郷のいちご狩りや観梅、常陸風土記の丘、牛久大仏などへ出かけられるように支援している。</p> <p>遠出の場合は家族等やボランティアの協力を得ながら出かけられるよう支援をしている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・欲しい物がある時には、いつでも買い物に行ける体制になっています ・利用者様の状態によっては、職員が代行し買い物をすることもあります 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの電話を利用し家族や友人への連絡が出来るようになっていきます ・レクレーションの時間に、手作りの絵はがきを作り、家族や知人へ一言添えて送っています（暑中お見舞いや年賀状など） 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・カーテンを利用する事で日差しや温度調節を行っています ・エアコンを利用し適度な温度と湿度を保てるようにしています ・玄関、事務所、リビングには常に季節の植物や花を飾っています ・毎月の行事の写真や利用者様の作品展示、ユニットに合った絵画を飾り居心地良い空間を作るように心がけています 	<p>居間の一角に畳コーナーを設け、利用者が横になったり洗濯物をたたむなど便利に利用している。</p> <p>日差しが強い東側の窓に簾を下げて利用者が日中涼しく過ごせるよう工夫をしている。</p> <p>台所からは居間兼食堂が見渡せるようになっており、利用者は職員と一緒に配膳や下膳を行っている。</p> <p>食堂からは地域の人が耕作する畑が見え、季節を感じるとともに野菜の成長が楽しめる。</p> <p>浴室は一人ずつ入浴し、車いす使用の利用者も安全に入浴ができる広さと手すりを設置している。</p> <p>トイレは車いす対応の広さがあり、手すりを設置している。</p> <p>居間の壁面に季節に合ったうちわや絵を飾ったり、絵画が得意な利用者の描いた作品を飾っている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングにソファを設置しくつろげるようにしています ・居室が個室になっているため、利用者様が1人でゆっくりしたいときにはゆっくりでき、気分や状態によって気が合う利用者様同士と一緒に過ごせる環境にもなっています 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅で使い馴れた家具を持ってきて頂くことで、利用者様が居心地よく生活出来る様に配慮しています ・利用者様が居室に必要な物なども、一緒に買い物に行き、好みの物を購入しています（購入する時には家族に連絡・相談しています） 	居室はエアコン、ベッド、照明器具以外は利用者が家族等と一緒に用意しており、カーテンや扇風機、仏壇、整理箆笥など、自宅で使い慣れた物品や好みの物品を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様1人ひとりに合ったケアを実施することで、出来る事は自分で行い、出来ない事は職員が介助するようにしています 		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input checked="" type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input checked="" type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあいりレー石岡

作成日 平成25年2月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所は移転して間もないため、地区長の協力を得ながらも地域の一人としてとけ込めるよう散歩途中で挨拶を交わしているが、地域との日常的に交流するまでには至っていない	地域の方と交流が図れるようになる	①運営推進会議のメンバーになっていただく ②ホーム行事等の参加への働きかけを行う	年内
2	13	避難訓練に地域の人々の参加や協力を得るまで至っていない	地域の方にも参・協力が得られるようになる	①上記同様、運営推進会議などを活用し地域の方に協力を得られるように働きかける	年内
3	12	看取り計画書を作成するまでに至っていない	看取りをするにあたり看取り計画書を作成する	①看取り計画書の作成	随時
4	5	危険防止のため玄関を施錠している	解除に向けて定期的な話し合いをする	①玄関の鍵の解除	H24.11より玄関の鍵を解除する
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。